

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年 1月22日

協議会名: 中土佐町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 中土佐ハイヤー	①川崎・萩原線 ②楠ノ川線 ③長沢・大坂線 ④下ル川線 ⑤萩中線 ⑥高樋線	全体的に利用が低調となっていた久礼地区の路線について地域住民との意見交換を行い、路線を統合する形で再編を行った。 また極端に利用が少なく今後利用の拡大が見込まれない区間の運行を休止とした。	A 計画通り事業は適切に実施された。	②楠ノ川線については目標を達成できた。 ③長沢・大坂線、④下ル川線、⑤萩中線は目標には届かなかったものの、それに近い利用が確認できた。 ①川崎・萩原線、⑥高樋線については目標値を下回る結果となった。 ④⑤⑥の大野見地区の3路線は昨年度と比較して利用者が減少している。今後も引き続き利用促進の取組みを進めていく必要がある。 ①目標8人/日に対し5.1人/日 ②目標8人/日に対し12.1人/日 ③目標8人/日に対し7.9人/日 ④目標14人/日に対し13.7人/日 ⑤目標14人/日に対し13.7人/日 ⑥目標10人/日に対し7.3人/日	住民の生活交通に関するアンケート調査においてコミュニティバスを利用したことが無いと回答した方が65歳～74歳で90.4%、75歳以上で82.2%と高く、いまだ利用には至っていないことが明らかとなった。 利用者懇談会や意見交換会において利用者の要望聴取や公共交通の利用の啓蒙を行うとともに、福祉部門の高齢者の外出支援策との連携を進める。